

ELYTRA

The Journal of
Japanese Society of Coleopterology



Vol. 4 No. 2
(Nov. 1976)

日本鞘翅目学会

投稿規定

1. 日本鞘翅目学会々員は会誌 ELYTRA に投稿できる。
2. 投稿内容は甲虫に関連したものに限定。
3. 投稿の掲載可否および掲載時期については編集局の合議による。
4. 原稿分量は、原則として1号1篇あたり刷上がり16頁までとし、それ以上のものは2回以上に分ける。
5. 和文の原稿は横書き、原則として現代かなづかいを用いる。
6. 原著に関しては欧文表題を付すこと。
7. 欧文の原稿には和文表題を付すこと。
8. 原著には Summary (要約) を付すことが望ましい。
9. ELYTRA に掲載される原著論文は、本会の審査委員会による審査を受け、受理されたものでなければならない。
10. 印刷代著者負担の原稿は、上記審査委員会で受理されれば、指定の号に掲載することができ、また、ページ数の制限をうけない。
(主に和文の原稿：1ページにつき ¥ 5,500, 主に英文の原稿：1ページにつき ¥ 7,500)
11. 和文の原稿では、種名は和名を主とし、学名は必要最小限にとどめる。
12. 新種および日本未記録種の記載については、必ず標本写真(原記載の場合は holotype に限る)あるいは写真に代わりうる図を付し、それらから種の特徴が判別不可能な場合には、別に図版でもってこれを補うことが望ましい。
13. 動植物の学名は、*Necydalis major* LINNÉ のように命名者は全記すること。ただし、同文中で重複する場合は省略してかまわない。
14. 文献は本文の終わりに一括して記すことが望ましい。雑誌名および巻号は省略体でよい。
(例) Ent. Rev. Japan 19, p.5~34, 1967
15. 活字の指定および校正は編集局に一任されたい。ただし、原著に関しては、初校は著者校正とする。
16. 別刷は原著に限って作成(50部以上)し、50部までは実費の半額を当会が負担、それ以上は著者の全額負担とする。(送料著者負担)
17. 掲載済の原稿は返却しない。ただし、原図・写真は希望があれば返却する。
18. 原稿の送付先は、当分の間、下記宛とする。

〒110 東京都台東区台東2-29-6 藤田 宏方, 日本鞘翅目学会編集局

【投稿に関する注意事項】

- a. 和文は「～である」調を用いる。ただし、会話文はこれに当てはまらない。
- b. 欧文原稿は1行60字内外にタイプする。
- c. 未記録種の投稿に際しては、それが未記録であると考えた理由を明記することが望ましい。
- d. 分類の紛らわしい種の記録を行なう場合は標本写真を付すことが望ましい。なお、本会誌に用いるための標本写真撮影は当会にても行なうので、希望者は事務局宛に連絡されたい。(1号につき4点までは無料、それ以上は実費を請求する。)
- e. 写真および図版は出来上り予定寸法の1.5倍程度に製作するとよい。
- f. 採集データ(和文)は次のように略記すればよい。
5 凸 1 早, 群馬県武尊山, 16. VII. 1970, 衣笠恵士採集
- g. 原稿は編集局により一部変更されることがあるが、変更箇所が内容及ぶ場合はあらかじめ著者の了解を求める。また、不備な原稿は書き直しを要求することもある。
- h. 原著論文の著者校正において、校正中の追加・変更は一切認めないので、完全原稿を旨とすること。

台湾産食糞コガネムシ解説〔3〕

益本仁雄

A Revision of the Coprophagid-beetles from Formosa [3]

By Kimio MASUMOTO

(Received Sept. 9, 1976; Accepted Oct. 7, 1976)

はじめに本解説〔2〕に掲載の *Onthophagus* の近似種3種 (*O. kentingensis*, *O. egurianus*, *O. mushensis*) の比較表を掲げる。(表1)

表1 *O. kentingensis*, *O. egurianus*, *O. mushensis* の比較表

<i>O. kentingensis</i> NOM.	<i>O. egurianus</i> MATS.	<i>O. mushensis</i> MATS.
黒〜黒褐色, 上翅はいくぶん淡色。前胸背基部, 両側, 上翅第2, 3間室の基部, 端部等は黄褐色。体表は光沢があるが上翅はやや鈍い。	♂黒色, からかぬ色を帯びる。前胸背両側は赤褐色。上翅の1, 3, 5間室の基部と先端は赤褐色の点紋。	(<i>O. egurianus</i> に近いが, 相違としては:) 触角は暗黒褐色 (<i>O. egurianus</i> では赤錆色), 頭楯は先端が褐色がかかる。
頭部は幅広く, 頭楯は♂で粗く密に点刻され鈍く尖り前方は強く反る。♀はシワ状でまるまり, わずかに反る。前頭は♀では前後2隆起, ♂ではこれを欠き両眼間に2突起。	頭部は長く, 頭楯は前縁が強く反りややとがる。多くの大小の点刻を有す。後方部に彎曲した横隆起が痕跡的にある。頬は点刻が少ない。頭頂は頭楯より点刻少なく, 両側には円錐形の角状突起がある。	頭部は頭楯はあまり反らない。点刻はより小さく, より疎で, 後方には横隆起の痕跡はない。頭頂の後縁は低い横隆起があり, その両端はコブ状に高まる。
前胸背は粗に点刻され, 基部中央が弱く縦に圧せられ, ♂では前方に傾斜, 中央が縦にえぐられ, 傾斜の頂点には2個の隆起となる。♀は前方に低まり平滑。基縁は中央で鈍く角ばり, 細くふちどられる。側縁は前方にまるまり, 後方はよわく彎入。前角はやや角ばる。	前胸背は粗く点刻され, 横にねた毛を装う。後方と側縁は点刻が疎で, 肩角部は鋭い。前縁は中央部で極めて深い縦溝を有し, 滑らかで光沢がある。両側は瘤状に高まる。中央部は前方のくぼみから後縁に狭い縦溝を有す。	前胸背の前縁はより短い縦溝を有し両側の高まりはより短かくコブ状。肩角部はより幅広く, 前胸背板面はより平らで, 縦溝を認めない。
上翅は結節状の条溝を有し, 条溝の点刻は直径の2〜3倍の間隔, きわめてわずかに間室を侵す。間室はほぼ平坦。皮革状の微小点刻を有す。	上翅は条溝を有し, 間室は明らかに高まり, 3条の点刻列を有し, 各々は横にねた毛を装う。	上翅は間室が高まらず, 顆粒状の点刻は明らかにより小さい。
尾節板は弱く突出, 粗くやや密に点刻され, 毛を有す。	尾節板は粗く疎に点刻され, 基部に退化した縦隆起を有す。前脛節外歯は先端が鈍い。	尾節板の基部は縦隆起の痕跡がある。前脛節外歯は一層短い。
体長: ♂ 5.6~6.7mm, ♀ 5.8~6.2mm	体長: 6mm (<i>O. atripennis</i> . にやや似るが上翅に赤褐色紋あり)	体長: 5mm

10) Subgenus *Onthophagus* LATR., 1802

本亜属は特長点が少なく, 反面含まれる種は極めて多く識別がむずかしい。また, 記載内容が曖昧なものはすべてこの亜属に含まれる欠点をもつ。従ってこの亜属には他に移すべき種が混っていることが十分考えられ

る。台湾から30種ほど知られる。

O. (s. str.) *anguicorius* BOU. (脚注1)

コウセンエンマコガネ (= *O. midorianus* MATS.)

体長5.5~7mm。黒色で上半部は緑色光沢を有す。

前胸背表面は小判型の顆粒を有し、中央前方に瘤状隆起を具える。腐肉に來集していた。

採集記録：墾丁(7~8月), 大埔林, 甲仙埔(三輪); *O. midorianus* として埔里(5月), 恒春(6月)(松村)

O. (s. str.) kuantunensis BAL.

クワトンエンマコガネ* (脚注2)

野村(1973)が台湾から初記録した種である。体長6~8 mm。幅広い卵形で上面はやや平圧され黒色で上半部は光沢があり、上翅は鈍く、無毛。頭楯は粗く深く点刻されシワ状。胸背側部の点刻は縦に合流し、斜にシワ状。頭胸背は特長なし。

採集記録：奮起湖(6月)

O. (s. str.) formosanus GIL. タカサゴエンマコガネ* (タイワンエンマコガネ=三輪)(= *O. yanoi* MATS.)

(脚注3)(Pl. 4 Fig. 5)

体長6~7.5 mm。黒色でつやがあり頭胸背は緑銅光沢を帯び、前頭部はわずかに高まり、後頭部には横隆起あり。前胸背は単純で上翅間室は高まる。野鳥の死骨に來集していた。

採集記録：碧湖(霧社)(4, 8月), 墾丁(6~7, 10月), 南山溪(4月), 六龜(4月), 内湾(7月), Shihmen(7月); 大埔林庄(SAUTER), 鳳山, 港口, Naifunpo, Jûgofunshô(三輪); *O. yanoi* としてChokakurai(タイプ)(6月)

O. (s. str.) dapcauensis BOU.

チビエンマコガネ(Pl. 4 Fig. 6)

体長約3.5 mm。短卵形。黒~黒褐色で上面は短毛を密生し、わずかに金属光沢を帯びる。頭楯は突出し中央が切込み、♂の前頭は隆起を欠き頭頂に角を具え、♀では前頭と頭頂に横隆起がある。前胸背前方中央には瘤状隆起を具える。前胸背の点刻は眼状。農業試験場の標本中には *O. punctatus* ILL. として屏東(三輪)の個体があるが、本種と思われる。

台湾南部の海岸のヤギ糞から採集した。

採集記録：枋山郷(5月), 綠島(7月), 台南(三輪)

O. (s. str.) tatsienluensis BAL.

シセンエンマエガネ* (Pl. 4 Fig. 7)

体長3.5~4 mm。卵形で黒褐色。光沢鈍く全面に黄色短毛を装う。頭胸背の点刻は粗く密。特長の少ない種である。

採集記録：南山溪(5, 7~8月), 霧社(5~6月), 松崗(8月), 墾丁(6月)

**O. (s. str.) armatus* BLANCH.

オオウシヅノエンマコガネ*

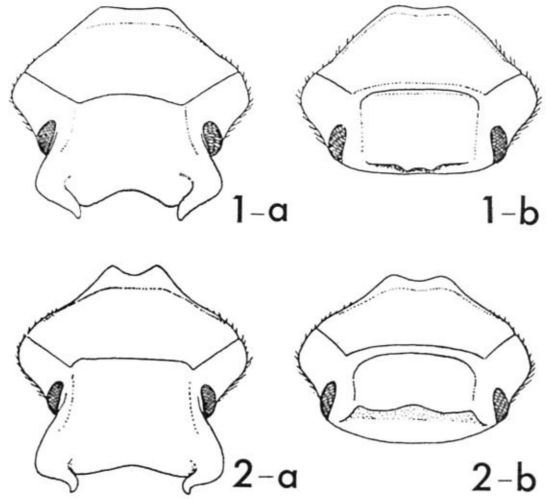


図1 *O. pseudoarmatus* BAL. a-♂ b-♀

図2 *O. armatus* BLAN. a-♂ b-♀

(BALTHASAR, 1963より)

O. (s. str.) pseudoarmatus BAL.

ニセウシヅノエンマコガネ*

(= *O. nagasawai* MATS.) (Pl. 4 Fig. 1, 1a)

両種とも7~8 mmで黒色。通常光沢あり無毛。♂には曲った1対の角を有し、その間は板状隆起あり。

従来台湾からは前者の記録があった。BALTHASAR(1963)によれば両者は酷似するが次の点で区別されるという。(図1, 図2)

***O. armatus* と *O. pseudoarmatus* の区別点**

① ♂の頭楯前縁は彎入せず前頭隆起はかるく曲る。♀の頭頂隆起は中央でのみ多少なりとも板状に高まる。後方の前頭隆起は両側から縦の隆起が走り、四角に囲まれた部分をつくる。

……*pseudoarmatus* BAL.

② ♂の頭楯は深く彎入、前頭隆起は直線的。♀の頭頂隆起は三齒状、前頭には縦隆起なし。……*armatus* BLANCH.

手元の台湾産の標本を検したところ、すべて *pseudoarmatus* であった。なお野村氏は、両者は地方的亜種関係であろうとのご意見である。

採集記録：*O. pseudoarmatus* 型：湖口(4, 10月), 墾丁(7月), *O. armatus* としての記録：綠島(7月)および安平, 台南, 台北, 南投(三輪)

O. (s. str.) roubali BAL.

ルーバルエンマコガネ*

体長7 mm。長卵形で黒色。上半部は光沢有り。上翅はサメ肌状で光沢は鈍い。上面は短毛を装う。♀は前頭および頭頂に隆起を具える。前胸背の前方中央に短い縦隆起がある。

採集記録：Shihmen(7月), 六龜(4月)

O. (s. str.) rugulosus HAR.

ハロルドエンマコガネ

(=*O. sonani* MIWA) (Pl. 4 Fig. 2, 2a)

体長10~14mm。黒色でやや光沢あり、上翅は短毛を装う。

牛糞に來集していた。

採集記録: 南山溪(4月), 霧社(4月), 奮起湖(5~6月), 陽明山(10月); *O. sonani* として, 奮起湖, Rantaizan, Sikikum(三輪)

O. (s. str.) acuticollis GIL. トガリエンマコガネ

(=*O. mařani* VŠET.)

体長約9.5mm, 銅褐色で前胸背は緑色光沢あり, 前胸背の両側と下面は赤錆色の長毛を装う。胸背は強く膨隆し前方に一突起があり, 後方には浅い縦溝が認められる。なお, 南西諸島で亜種が採れている。野村(1976)は本種を *Parascatonomus* 亜属としている。

採集記録: 蓮華池(6月), 六亀(4月), 墾丁(6, 8~9月), Shihmen(7月); 大埔林(三輪)

O. (s. str.) sobrius BAL.

ニセミツコブエンマコガネ*(Pl. 4 Fig. 8)

体長約8mm。卵形で光沢ある黒色。上半部は銅光沢あり。上翅の基部, 翅端には赤黄色の紋を装う。♂は前頭に隆起なく, 頭頂中央は小瘤を具え, 前胸背前方は落込み, 傾斜の上辺は丸みを帯び, 中央は広く窪み, 両側はやや瘤状。前胸背面の後方に毛を装う。

採集記録: 奮起湖(5, 8月)

O. (s. str.) trituber (WIED.)ミツコブエンマコガネ
(ミットゲエンマコガネ) (Pl. 4 Fig. 3, 3a)

体長5~8mm。黒色で上半部は緑銅光沢を帯びる。上翅は赤黄色で黒紋を装う。♂は前頭隆起を欠き, 頭頂には後方に少し傾いた板状突起を有しその中央はさらに指状突起となる。♀は前頭と頭頂に直線的な横隆起を具える。前胸背前方に♂♀とも瘤起を有す。色彩, 体形とも変化が多く, 松村(1938)の *O. umenoi* や *O. chokakurianus* は恐らく本種の小型(次ページ表2参照)。主に平地の人糞, 犬糞に集まる。

採集記録: 台湾本島各地(6, 8, 12月), 緑島(7月)

O. (s. str.) sauteri GIL.

ザウテルエンマコガネ (Pl. 4 Fig. 9)

体長約5mm。黒色で上半部は銅色光沢を有し, 上翅は赤黄色で黒紋を装う。♂の頭頂は三角の板状突起を具え, その上方は前方に曲った角となり, その直後の前胸背前縁部は少しえぐられる。♀では前頭隆起は細いが明らか。♂の前関節は切断状。また, ♀は一見 *O. koshunensis* に似る。

採集記録: 陽明山(5月), 南山溪(3月), 六亀(4, 8月), 墾丁(6, 10月), Sokutsu, 甲仙埔, クラル, 港口(三輪)

O. (s. str.) terminatus ESCH.

リュウトウエンマコガネ (Pl. 4 Fig. 10)

体長3.5~4.5mm。黒褐色で光沢は鈍い。上半部は弱い金属光沢を帯びる。前胸背前角部, 上翅側辺に点紋状の黄色部あり。前頭と頭頂の間が台状に高まり, 前胸背はやや眼状点刻となる。

採集記録: 緑島(7月), 蘭嶼(3, 5, 7月)

**O. (s. str.) agilis* MATS. フタホシエンマコガネ

本種は *O. nitidus* に似た種として松村により記載された。主旨は次の通り: ♀, 5mm。黒, 上翅は黒褐色, 基部に褐色紋あり。頭部前縁は強く上反するが彎入しない。上面は一様に密にこまかく点刻され首の近くに浅い窪みがあり, 両側はやや高まり, そこは点刻が少ない。前胸背は点刻が前頭のものより大きく, 前縁部の中央に小さい窪みをもち, 後縁に向って浅い縦溝状となる。前角は鋭い。上翅の間室はかなり隆まり横にねた灰色の毛を装う。Chokakurai で11月に採集されたものという。未だ何物であるか不明である。

**O. (s. str.) centricornis* (F.) マメエンマコガネ

Caccobius unicornis に似た種である。体長2.5~3

mm。黒色で上半部は銅色光沢があり上翅は黄色, 前角はより鈍くない。また, 前胸背前角下面がえぐられない点で区別できる(図3)。本記録は *C. unicornis* の誤認かもしれない。植物試験場の標本は埔里のラベルが付いている頭部の欠落した個体であった。

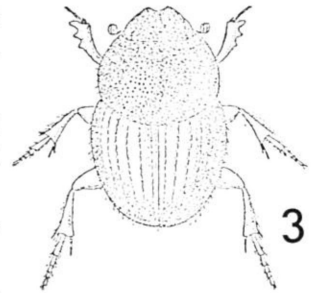


図3 *O. centricornis* (F.)
(ARROW, 1931より)

分布記録: 埔里(三輪)

**O. (s. str.) chokakurianus* MATS.

チョウカクライエンマコガネ

恐らく *O. trituber* の一型と思うが *O. umenoi* と共に原記載の要約を記す(次ページ表2)。

**O. (s. str.) dama* (F.) ルリエンマコガネ

体長8.5~11mm。暗緑~藍黒~銅色で上半部は光沢あり, ♀では前頭頸部に退化した弱い隆起と頭頂に1対の角~瘤を具え, ♀では前頭に2隆起と頭頂にも板状の瘤状隆起を有す。農業試験所で標本は見当らなかつた。

表 2 *O. umenoi* と *O. chokakurianus* の特長

	<i>O. umenoi</i> MATS., 1938 Ins. MATS. 12(2/3): p.61 (♀, <i>O. matsukoi</i> に似るがそれと比較して)	<i>O. chokakurianus</i> MATS., 1938 Ins. MATS. 12(2/3): p.56 (♀, <i>O. umenoi</i> に似るがそれと比較して)
色彩等	触角は黄赤錆色。頭部の前縁部はいくぶん赤錆色。上翅は黄色がかかる。黒色部は次の通り；基部の中央部の1紋、会合部中央のかなり大きな共通の紋、側部のより大きい紋、両先端部の非常に小さい紋。前脛節は赤褐色。	触角は暗褐色。頭部は両隆起の外側は銅色光沢を帯びる。上翅中央部に大きな黒紋があり基部から先端付近までのびる。両側縁付近は縦黒紋は上方に肩部までのびるが先端に達しない。尾節板は中央部で縦の長い黒紋がある。前脛節は上縁が黒褐色 (fuscous), 外歯は赤錆色。
頭部	頭楯部は横シロ状、前方隆起はより強く、ほとんど曲らず後方隆起は明らかで前方のものと平行、その間にはほとんど点刻なし。後方隆起の後方は小点刻を散布。	前縁はより強く反り、頭楯部はより粗く横にシロ状、前方隆起はより前縁に近い。後方隆起は幅広くゆるく後縁に傾斜する。
前胸背	前縁付近は3瘤起あり。中央縦隆起を欠く。点刻はより深く後縁付近で縦溝を具える。瘤状隆起の内側は明らかに溝状。	よりこまかくまばらに点刻され前縁に瘤起なく、各側突起の後方に浅いアバタ状の窪みがある。後縁部の中央縦溝を欠く。
上翅	よりこまかい毛を装い、縦条はより幅広い。	条刻され間室はよりこまかな点刻が2~3縦列となり、ほとんど毛を欠く。
その他	前脛節外歯はより短く、先端外歯は鈍い。 体長 5 mm	前脛節外歯は鈍く、第1歯が最も長い。 体長 4 mm
タイプ	♀, 12-II-1932, クラル(恒春), A. UMEMO leg.	♀, 28-II-1936, Chokakurai, Y. YANO leg.

分布は疑わしい。

分布記録：台南(三輪)

O. (s. str.) hastifer LANS. アカガネエンマコガネ (= *O. putealis* MATS.) (Pl. 4 Fig. 11)

体長6~7 mm。銅~赤褐色で光沢は強くない。上面はわずかに金属光沢を帯び短毛をかなり密に装い上翅基部と翅鞘に橙色紋を有す。♂は前頭頸部に横隆起と両眼間に1角を具え、♀では強い2隆起を有す。GILLETも *O. turmaris* を書いたが本種の synonym である。

採集記録：墾丁(5, 7月), 鵝鑾鼻(5月), *O. putealis* として: Chokakurai (タイプ) (6月)

**O. (s. str.) hirsutulus* LANS. ツグロエンマコガネ 体長4 mm, 卵形, 黒褐色で光沢あり。上半部は金属光沢を帯び、肩部は黄紋を有し、かなり長い黄色毛を装う。頭部は2隆起あり。前胸背は単純。♀が Java から書かれた。試験場には溝口のラベルが付いた標本があるが、同定はあやしい。

分布記録：鳳山, Nôko (三輪)

O. (s. str.) mendicus GIL. ヒメツヤエンマコガネ

本種は SAUTER が大埔林付近で得た個体をもとに書かれた。

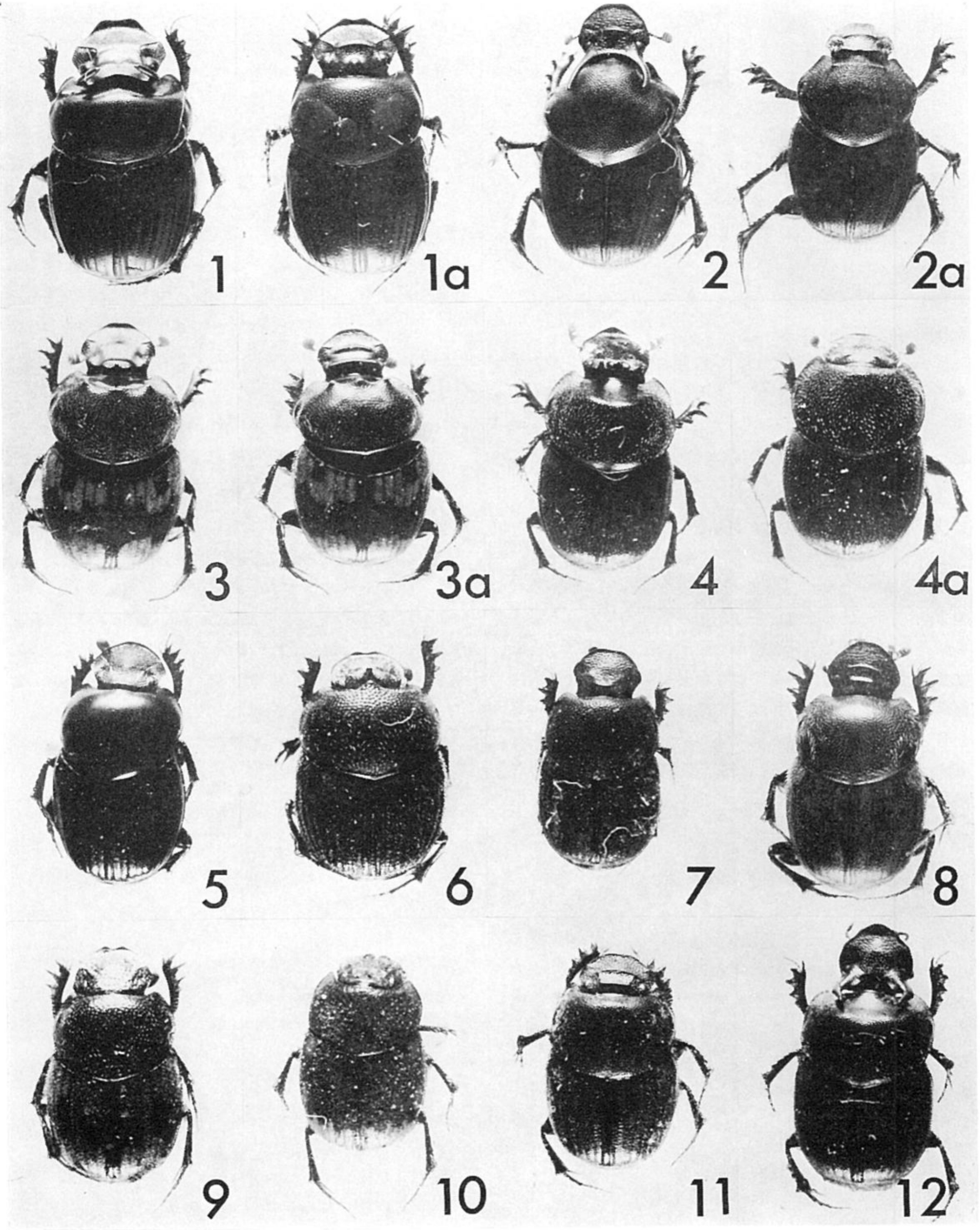
体長4~5.5 mm。長卵型。わずかに高まり、かなり光沢鈍く、暗褐色。頭部前方と肩部および翅端の紋は赤褐色(紋は消えることもある)。前胸背はしばしば弱い金属光沢を帯びる。上面は非常に短い白色の毛を装う。

♂の頭部はいくぶん放物型で♀はほぼ半円型。♂は大小の点刻があり、また、♀では一様でなくかなり密に、前方ではほとんど合流するように点刻される。前頭隆起はわずかに曲り、♂の頭頂はほぼ円錐状の上がまるまっているか、または切断状の後方にいくらか傾いた小さな板状の突起があり、♀では両端に切りつめられた単純な隆起がある。前胸背は大小の点刻を散布し、♂は前方は傾斜し、♀では弱い横の鈍瘤起を具える。前角はかなり鋭く両側は後方でやや弧状。基部中央は軽く角ばる。上翅は細く条刻され、間室は軽く膨隆しヤスリ目状点刻を具う。邦産ツヤエンマコガネの南方型に似ているが♂はツノを有す。なお、農業試験場の標本中に本種と同定された個体がある。

分布記録：大埔林, 台南

Explanation of Plate 4 (p. 29)

- | | |
|--|--|
| 1. <i>O. (s. str.) pseudoarmatus</i> BAL. ♂ 1a, 同♀ | 2. <i>O. (s. str.) rugulosus</i> HAR. ♂ 2a, 同♀ |
| 3. <i>O. (s. str.) trituber</i> (WIED.) ♂ 3a, 同♀ | 4. <i>O. (s. str.) proletarius</i> HAR. ♂ 4a, 同♀ |
| 5. <i>O. (s. str.) formosanus</i> GIL. | 6. <i>O. (s. str.) dapcauensis</i> BOU. |
| 7. <i>O. (s. str.) tatsienluensis</i> BAL. | 8. <i>O. (s. str.) sobrius</i> BAL. |
| 9. <i>O. (s. str.) sauteri</i> GIL. | 10. <i>O. (s. str.) terminatus</i> ESCH. |
| 11. <i>O. (s. str.) hastifer</i> LANS. | 12. <i>O. (s. str.) dubernardi</i> BOU. |



(H. MATSUKA Photo.)

**O. (s. str.) luridipennis* BOH.

アオムネエンマコガネ

体長5~7mm。幅

広い卵形。黄褐色で上半部は金属光沢を有し、頭部、両側と基部中央を除いた前胸背、上翅の条溝と点刻は黒色を帯るが暗色部は広がることもある。♂は頭楯が強く突き出し両眼後方に1対の角を具え前胸背は前方に瘤状

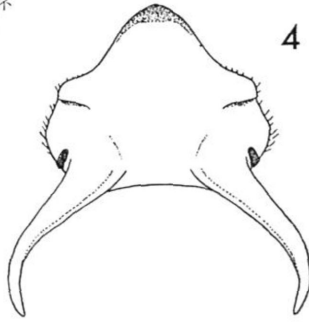


図4 *O. luridipennis* BOH.
(BALTHASAR, 1963より)

の低い2個の高まりをもつ。♀は頭部に2隆起と前胸背前方に2瘤起を有す(図4)。分布記録のもとになったと思われる埔里の地名ラベルがついた標本が農業試験場にあったが台湾産かどうか真疑のほどは不明。

分布記録: 埔里(三輪)

**O. (s. str.) orientalis* HAR.

トウヨウエンマコガネ*

体長7.5~13mm。卵形。黒色で光沢あり。前胸背はかすかに銅~緑~藍色を帯び頭楯と肢は多少なりとも赤味がある。体の大部分は短毛を密ではないが装う。♂の頭部は前頭に隆起と後頭に角を具える。その直後の前胸背前縁部は窪み、両側はやや瘤状。♀は頭部に2隆起を有し、前胸背前縁部は垂直に傾斜しその上辺は隆起を有するが中央がとぎれる。農業試験場に標本があるが台湾産であることは疑わしい。

分布記録: 恒春(三輪)

**O. (s. str.) pilularius* LANS.

マレイエンマコガネ

体長3.5~5.5mm。卵形で強く膨隆。黒色で光沢あり。上面は無毛で金属光沢を帯びる。頭部は2隆起あり。前胸背基部の両側近くにかすかな斜の窪みあり。上翅は強く条刻される。♂の前脛節端刺はかなり太短い。三輪・中条(1939)のカタログに載っている。農業試験場の標本は屏東(三輪)の個体を GILLET が同定しているラベルが付いている。

O. (s. str.) proletarius HAR.

ヨツモンエンマコガネ(Pl. 4 Fig. 4, 4a)

体長5~7mm。黒~黒褐色。頭胸背は金属光沢を有し、上翅基部と翅端に橙色の紋をもつ。♂の頭部は平坦で頭頂に1対の垂直な板状の角を具え、両角間に小瘤を有す。♀は点刻が多く前頭に低い隆起と両眼間に両端が高まった隆起をもつ。

人糞に來集していた。

採集記録: 陽明山(8月)、花蓮港(10月)、草山(=陽明山(三輪))

**O. (s. str.) umenoi* MATS.

ウメノエンマコガネ

別表(表2)の通り、*O. trituber* の1型と思われる。

**O. (s. str.) gibbulus* (PALL.)

チャバネエンマコガネ

体長8~15mm。広卵形で光沢は弱く、頭胸背は黒色。上翅は黄色で黒点紋を有す。♀は前頭頸部と頭頂に隆起を具える。前胸背は♂では頭部の角の後方が窪み、♀では前方中央に角状突起を有する。加藤(1933)の図鑑に図示されているが、分布はかなり疑問である。なお、農業試験場の標本は満州産。

**O. (s. str.) nitidus* WATERH. ツヤエンマコガネ

加藤の図鑑に台湾が分布地として挙げられている。本種の分布の可能性はなくはないが、近似のまったく別種ということもあり得る。

O. (s. str.) dubernardi BOU. <New record>

ヨウメイエンマコガネ*(Pl. 4 Fig. 12)

本種は一見 *O. (Gib.) taurinus* に似るが、前胸背前方に瘤起や窪みをもたない。体長6~7mm。♂の両眼後方から板状の牛角が突き出る。ビルマ、シッキム、北ベトナムおよび中国(雲南、四川、貴州)と南チベットから知られているが、今般台湾から新記録された。(陽明山)

**O. (s. str.) nagasawai* MATS.

ナガサワエンマコガネ

既に触れた通り、*O. pseudoarmatus* の短角型を指すものと思われる。

この他、加藤が嘉義産の *Onthophagus* を図示しているが内容は不明である。また、新種を含む数種の未同定標本があるが、それらについては後日にゆずることとしたい。

(次回へ続く)

脚注1~3) 野村は *Parascatonomus* 亜属の研究(1976)の結果、これらを *Parascatonomus* 亜属に含めるべきであると報告している。

Description of a New Species Allied to *Chlorophorus boninensis*
KANO from the Bonin Islands (*Cerambycidae*)

By Jiro KOMIYA

(Received Sept. 23, 1976; Accepted Oct. 7, 1976)

Chlorophorus kobayashii, sp. nov. (Fig. 1, 2) (Plate 5 Fig. 2~2b)

(Japanese name: Ogasawara-kiiro-tora-kamikiri)

Chlorophorus boninensis: GRESSITT (nec. KANO), 1956, Ins. Micro., 17(2): 106.

Chlorophorus boninensis f. *yayeyamaformis* KUSAMA, 1973, Reports of Faculty of Science, SHIZUOKA Univ., 8:125.

Chlorophorus yayeyamensis: KOJIMA et al. (nec. KANO), 1965, Research Reports KOCHI Univ., 14, Nat. Sci. II (9): 85 (Ogasawara).: KOJIMA, NAKAMURA et HAYASHI (nec. KANO), 1971, Gensei, 22:13.

This new species is so closely similar to *C. yayeyamensis* (Plate 5 Fig. 1~1b) and *C. boninensis* (Plate 5 Fig. 3~3b) that it has always been confused with either of the latter two species. Dr. KUSAMA (1973) recognized it as an independent form and described *C. boninensis* f. *yayeyamaformis* adding that whether it is independent species or not will be decided by further morphological and ecological investigations. Mr. KOBAYASHI made a contribution to the taxonomy of this species in bringing a good series of specimens of it as well as *boninensis* from the Bonin Islands. Furthermore he suggested to the author that this species and *boninensis* are somewhat different from each other ecologically although he can hardly explain the difference systematically. After careful morphological investigation, especially of male genitalic features, it was confirmed that this species is different from any other species previously described.

Specific characters: Length of body: 8.5—12.5mm. Width of elytra: 2.3—3.1mm.

Body black, clothed with ochraceous-yellow pubescence and partly with pale yellow and black pubescence. Head black, thinly clothed with pale yellow pubescence. Prothorax black, densely and

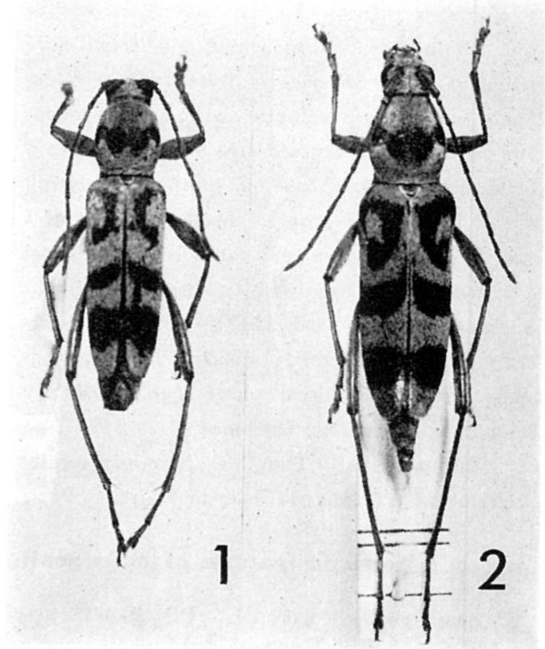


Fig. 1 *Chlorophorus kobayashii* sp. nov., ♂, holotype.
Fig. 2 ditto. ♀, paratype.

evenly clothed with ochraceous-yellow pubescence, with black markings which consisting of two spots at center and a smaller spot at each side slightly anterior to the central spots; every spots somewhat fused together forming a sinuate transverse band. Scutellum black, densely clothed with ochraceous-yellow pubescence. Elytron black, densely covered with ochraceous-yellow pubescence

Acknowledgement

The author wishes to express his sincere gratitude to Dr. K. KUSAMA for his advice in the course of this study and also to Messrs. M. TAKAKUWA, T. KOBAYASHI and Y. ODA for their kind help in obtaining the valuable specimens used in this study. He is also due to Mr. H. FUJITA not only for the specimens but also for the preparation of drawing accompanying the present paper.

摘 要

(1) 新種 *Chlorophorus kobayashii*

(和名オガサワラキイロトラカミキリ) の記載
この種は従来オガサワラトラカミキリまたはヤエヤマトラカミキリと混同されていたもので、1973年、草間博士により *C. boninensis* f. *yayeyamaformis* と命名されたが、検討の結果未記載の種であることが判明した。♂の性生殖器が非常に発達しており他の2種とは一見して区別できるほか、外見でもオガサワラトラとは上翅の黒紋が小さいことで、ヤエヤマトラとは触角および前胸背が細いことで容易に区別できる。

産地は小笠原群島父島、母島、東島。

(2) ♂性生殖器の形態による3種の検索表

- 1 (2) 陰茎、側片葉は肥大し強く硬化する。側片葉は先の肥大したさじ状。……………*kobayashii*
2 (1) 陰茎、側片葉共に小さく、全体に硬化が弱く、側片葉は細長い……………3
3 (4) 陰茎は両側がほぼ平行の引延ばされた砲弾形。側片葉は特に小さく硬化が弱い……………*boninensis*
4 (3) 陰茎は両側がやや円みをおびた舌状。側片葉は陰茎より硬化がつよい……………*yayeyamensis*

T T S 甲虫海外図鑑・図書

◆ Dillon, E.S. & L.S. Dillon A Manual of Common Beetles of Eastern North America. (2巻セット)
アメリカ北東部甲虫図鑑 (DV-006-7) ¥3,700 (〒440).
A5, 900頁アメリカの普通種64科1,200種の同定が可能。

◆ Hatch, M. H. The Beetles of the Pacific Northwest.
Part I: Introduction & Adepaga. (UW-001) ¥6,280 (〒440).
Part II: Staphyliniformia. (UW-002) ¥6,280 (〒440).
Part III: Pselaphidae & Diversicoria. (UW-003) ¥8,075 (〒440).
Part IV: Macroductyles, Palpicornes & Heteromera. (UW-004) ¥5,380 (〒400).
Part V: Phipiceroidae, Sternoxi, Phytophaga, Rhychophora & Lamellicornia. (UW-005) ¥8,075 (〒480).
ハッチの名著、各巻280~680頁図版多数、クロス版。版元在庫少。お早目に!

◆ Hardy, A.R. A Revision of the Genus *Pelidnota* of America, North of Panama. (Scarabae; Rutelinae) (UC-031) ¥1,110 (〒320).
B5, 47頁7図版。14分布図

ご注文・ご予約ともハガキに署名・捺印の上お申し越し下さい。直ちにお送り致します。代金は到着後5日以内にご送金下さい。(但し、未成年者は保護者の署名・捺印も)。

在庫リスト(要〒100) リスト発行年4~5回

◆ O'Brien, C.W. A Taxonomic Revision of the Weevil Genus *Dorytomus* in North America (Curculionidae). B5, 76頁11図版27テキスト図 (UC-033) ¥1,110(〒360).
◆ Young, F.N. The Water Beetles of Florida. フロリダの水生甲虫 (UF-001) ¥2,220 (〒400). B5, 248頁31図版

“Pacific Insects” vol.3 (1961) 596pp. (PI-603) ¥2,590 (〒480).
Chujo, M., & S. Kimoto Systematic Catalog of Japanese Chrysomelidae. p.117-202. (日本産ハムシ科分類目録)
Li, C.S. & E.F. Cook The Epilachninae (Coccinellidae) of Taiwan. p.31-91. (台湾産マダラテントウ亜科)
本巻には上記の甲虫関係論文を含みます。この他大平地域の昆虫論文多数掲載。

◆ 安立綱光 私の動物学修業—安立綱光著作選集— A5. 190頁 前半約100頁は甲虫に関する著作集。 ¥1,300 (〒400)
◆ 草間慶一他 四季の昆虫—静岡の自然—(新刊) A5. 274頁16原色図版。本文中写真・図多数 ¥950 (〒360)
◆ 松本むしの会(編) 長野県のカミキリムシ(新刊) B5. 214頁350図以上。長野県のカミキリ310種を写真付写真付で記録 ¥1,500 (〒400)
(小社の送料は¥200の書留料を含みます。2冊以上になると大変安くなります。)

お近くの方は小社カタログショップ(小田急経堂駅前・小田急経堂ビル12F1221号)へ! 昆虫洋書常時300タイトル以上在庫。

昆虫・動植物海外図鑑・学術書(旧パピオン)

東京通販サービス社

〒156 東京・千歳郵便局私書箱33号
TEL (03)426-6012 郵便振替 東京0-73,156

稿 KŌCHŪ 虫

青森県における

オオヒョウタンゴミムシの採集記録

阿部 東

オオヒョウタンゴミムシ *Scarites sulcatus* OLIVIER の本州における分布北限は、従来茨城県下とされていたが、筆者は本州の北端に近い青森県で本種を採集しているので、新たな北限記録として報告しておきたい。

1 ex., 青森県西津軽郡深浦町, 19. Ⅷ. 1954

海岸の砂浜に落ちていた穴だらけのゴム長靴の砂の中から採集したもので、足を縮めて死んだふりを装っていたが、手の中で転すとゆっくり足を動かした。採集地は秋田県に近く日本海につき出した部分で、本県では最も暖地性の生物が棲息する地域である。

(〒037 五所川原市松島町 2-91-3)

マメクワガタ沖縄本島の記録

小笠原 隆

マメクワガタ *Figulus punctatus* WATERHOUSE は、従来、本州(紀伊半島)・四国・九州・対馬・神津島・三宅島・御蔵島・八丈島・屋久島・トカラ中之島・奄美大島および台湾から記録されていたが、筆者は1976年5月に沖縄本島にて採集しているので、同島初記録として報告しておく。

1 ex., 沖縄本島与那覇岳, 21. Ⅴ. 1976

伐採枝の叩き網により得られた。

末尾ながら、本種を同定して下さり、分布域をご教示下さった市川敏之氏に感謝の意を表したい。

(〒156 世田谷区上北沢 5-8-2 第2荘)

コクワガタの土中越冬記録について

田尾 美野留

秋～冬にかけて羽化したクワガタムシが、材中で成虫越冬するため、各種のクワガタムシ新成虫が冬期、材中の蛹室内で見つかることはよく知られている。筆者は冬期採集において、土中で越冬していたコクワガタ *Macrodercas rectus* MOTSCHULSKY を得た。

クワガタムシの土中越冬例は聞かないので、報告しておきたい。

1 ♂, 茨城県那珂湊市下組, 31. Ⅹ. 1975

1 ♀, 茨城県取手市戸田井〜城根, 22. Ⅱ. 1976

♂の個体については崖の上部より落下してきたため、越冬状態については不明であるが、♀の個体は崖の赤土をはがしたところ、割れ目に沿って斜め下方を向き、はさみこまれるような形で越冬していた。2個体共夏に活動したものらしく、汚損した個体であった。

末筆ながら、発表をお勧めいただいた市川敏之氏に感謝したい。

(〒230 横浜市鶴見区平安町1-38-10)

カラカネチビナカボソタマムシの北限記録

大桃 定洋

カラカネチビナカボソタマムシ *Nalanda ohbayashi* Y. KUROSAWA を福島県の東北端、山形・宮城両県境近くで採集した。恐らく北限の記録と思われる。

1 ex., 福島県福島市茂庭,

4. Ⅶ. 1976

土場周辺のピーティングで得たもので、付近には食樹で



あるオニグルミが多かった。この他にも同県南会津湯の花にて1 ex. (21, Ⅶ, 1974)の本種を採集している。

最後に、同定と種々のご教示をいただいた田添京二先生に深謝いたします。

(〒167 杉並区西荻窪北 3-22-15 西荻コーポラス 202)

福島県いわき市のタマムシ5種

大桃 定洋

筆者は1976年、福島県いわき市において、興味深いと思われる次の5種のタマムシを採集したので報告する。

1. クロホシタマムシ

Ovalisia virgata MOTSCHULSKY

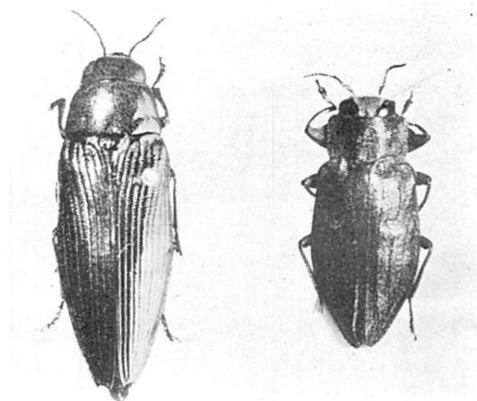
2 exs., いわき市小川郷, 20. Ⅶ. 1976

コナラの材に飛来した。同地は海拔50mで、海岸から数km離れた平野部の最奥とはいうものの、従来山間部で採集されている本種がこのような海岸に近い所で得られたことは興味深い。

2. アオタマムシ *Eurythyrea tenuistriata* LEWIS

1 ♀, いわき市江田, 4. Ⅷ. 1976

土場のアカマツ材に飛来した。従来の北限の記録は日光付近とのこと。(写真左) 同地は、イワキアオタマムシ *E. obenbergeri* の記録された福島県檜葉町木戸から山一つ南へ越した所で、イワキアオタマとの関連において、今後詳しい調査が必要であろう。



3. ツシマムツボンタマムシ

Chrysobothris samurai OBENBERGER

1 ex., いわき市小川郷, 22. V. 1976

従来、樺太・満州・朝鮮、および日本からは、対馬・九州本土(大分県)・中国地方(広島・岡山県)から記録されていた種であったが、今回、一気に福島県まで分布が延びたことは驚きである。

広葉樹(シイ類)の枯枝のビーティングで得た。この個体は f. *samurai* とされる四紋型のものである。(写真右)

4. ムネアカチビナカボソタマムシ

Nalanda rutilicollis OBENBERGER

多数, いわき市江田, 4. VIII. 1976

従来、東京周辺以南で得られていたが、その食樹の関係から福島県の太平洋側にも分布する可能性が強い、と注意していたところ、同地のアカメガシワの葉上から多数得ることができた。北限の記録と思われる。

5. オオウグイスナガタマムシ

Agrilus asiaticus igai Y. KUROSAWA

1 ex., いわき市江田, 4. VIII. 1976

従来、関西地方から知られていた種で、最近では東京都下でも得られた(藤田, 1976)。土場に飛来した多数のウグイスナガタマムシ *A. tempestivus* に混っていた1頭を得た。北限の記録と思われる。

なお、筆者は1976年に同地で、ホソツヤヒゲナガコバネ・ヨコヤマトラ・クリストフコトラ・アメイロなどのカミキリやオオシマオビハナノミを採集している。これらの記録からみると、今後詳しい調査がなされれば、より興味ある種が記録される可能性が非常に大きいと考えられる。従来、阿武隈山地での採集は、その人為的開発の度合から、成果の少ないものと考えられていたが、上記の場所のような、阿武隈山地の東斜面の沢添いの場所(多くの場合、水源保安林として保護されている)を選べばかなり期待されるのではないかと考えている。

最後に、タマムシを同定して下さった黒沢良彦博士、また、カミキリ・タマムシの同定と種々の御教示をいただいた田添京二先生に深謝いたします。

(〒167 杉並区西荻窪北3-22-15 西窪コーポラス202)

先島諸島のナカボソタマムシ属覚え書

藤田 宏

先島諸島からは従来、ミドリナカボソタマムシ・タイワンナカボソタマムシの2種の *Coraebus* が記録されていたが、筆者はこれらとは別な2種の *Coraebus* を所持しているので報告しておく。また、タイワンナカボソタマムシを竹富島より初記録として報告する。

1. *Coraebus* sp.¹⁾

1 ex., 石垣島オモト岳, 31. V. 1975, 深町宗通採集体長4.5mm。全身緑がかった銅色の *Coraebus* で、日本産本属中最小の種と思われる。他の日本産 *Coraebus* とは著しく外見が異り、亜属の異なる種と考えられる。

上記の他にも石垣島でいくつかの個体を得られている。

2. *Coraebus* sp.²⁾

1 ex., 石垣島オモト岳, 16. V. 1975, 深町宗通採集体長6mm。細い筒型の *Coraebus* で、本種も今まで本邦から知られていた *Coraebus* とはまったく異なる種である。全体に鈍い黄銅色で、上翅後半は黒色。翅端近くには2本の白い波状紋をもつ。この *Coraebus* は現在のところ、他に採集例がないようである。

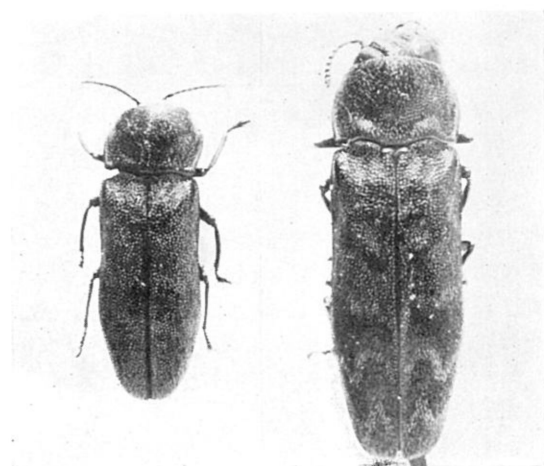
3. タイワンナカボソタマムシ

Coraebus formosanus MIWA et CHŪJŌ

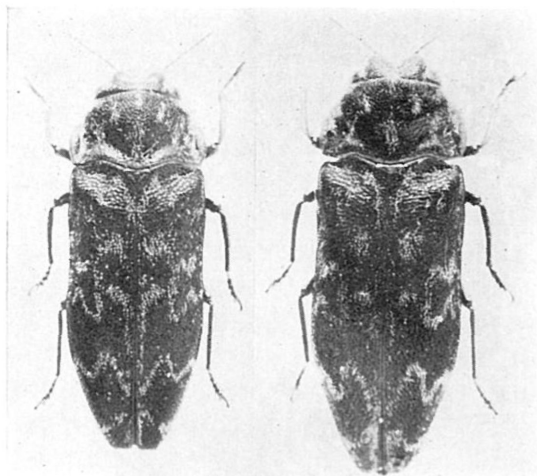
1 ♀, 石垣島バンナ岳, 28. V. 1974, 清野隆採集

1 ♂, 石垣島オモト岳, 26. V. 1975, 深町宗通採集

1 ♂, 竹富島, 28. III. 1976, 川田一之採集



左: *Coraebus* sp.¹⁾ 右: *Coraebus* sp.²⁾



タイワンナカボソタマムシ
左: ♂(竹富島産) 右: ♀(石垣島産)

ごく最近、日本初記録種として秋山 (1975) により琉球列島の奄美大島・沖縄本島・石垣島における採集例が発表された種で、同文では奄美の1♀、沖縄の1♀、石垣の2♀♀がそれぞれ記録されているが、稀な種と思われるので筆者の手元の標本のデータを報告しておく。秋山氏の記録は4♀♀で、♂は未見ということなので、♂の写真を添える。♂は♀に比べ体が細く、♀の頭頂・前胸背・上翅肩部および会合線付近が強い赤銅光沢を帯びるのに対し、上記の2♂♂はまったく赤銅光沢がなく、すべて青味を帯びた黒色である。また、上翅中央～後半の白い波状紋は個体により多少変化するようである。竹富島からは今回が初記録。

貴重な標本を恵与された深町宗通、清野隆、川田一之の各氏、および最近の日本～台湾産 *Coraebus* についての知見を教えてくれた秋山黄洋氏、標本写真を撮って下さった松香宏隆氏に感謝したい。

(〒110 台東区台東2-29-6)

房総半島のカミキリ2種

中村 俊彦

今夏、千葉県夷隅郡御宿^{おんじゆく}において下記2種のカミキリを採集した。いずれも比較的少なく、興味のある分布を示すので、ここに報告する。

1. ヒメビロウドカミキリ

Acalolepta degener (BATES)

1♀, 15. VII. 1976

2. ハチジョウウスアヤカミキリ

Bumetopia japonica heiana HAYASHI

1♀, 15. VII. 1976

1. は海岸近くの砂丘上を歩行していた個体で、その日

は風が強く、吹き飛ばされて砂上に落下したものであろう。

2. はやはり海岸近くのササ(アズアナササ)の叩き網で採集されたもので、本種の房総半島での採集例は少ないものようであり、勝浦における1例(石田正明, 1972)がある。今後、ササ類の叩き網により容易に得られる種と思う。

(〒175 板橋区高島平2-28-1 704号室)

屋久島でアカネトラカミキリを採集

矢野 立志



アカネトラカミキリ *Brachyclytus singularis* KRAATZ は朝鮮・中支那・シベリアの他、日本では北海道・本州・四国・九州における分布が知られていたが、島嶼部からの記録はなかったようである。筆者は鹿児島県熊毛諸島屋久島において本種を採集しているので報告しておく。

1♀, 屋久島宮之浦,

22. XI. 1975

ブドウの枯蔓中で成虫越冬していた個体である。

(〒734 広島市皆実町1-18-40)

箱根仙石原でヒメビロウドカミキリを採集

小田 義広

ヒメビロウドカミキリ *Acalolepta degener* (BATES) は本州では栃木県下・東京都小仏峠・三浦半島・昇仙峡・岐阜県下などにおける記録が知られているが、稀な種で、分布も局所的なようである。筆者は神奈川県下で本種を採集しているので報告しておく。

1♂1♀, 神奈川県足柄下郡箱根仙石原,

15. VII. 1976, 小田義広採集

仙石原の湿原で、アザミの葉を後食に集まるアサカミキリを採集していたところ、シオンに似たキク科植物?の葉上に止っていたもの。採集時間は2頭共午後3時頃、曇天で時々日照のある天気であった。

(〒253-01 神奈川県高座郡寒川町倉見1765)

アカムネハナカミキリを表日光高薙山^{たかなぎ}で採集

森島 直哉

アカムネハナカミキリ *Macropidonia ruficollis* PIC

は非常に採集例の少ない種として知られているが、筆者の手元に1♂の標本があるので、データを書きとめておきたい。

1♂, 栃木県塩谷郡高雉山, 8. Ⅷ. 1964,

森島直哉採集

西沢金山跡から日光沢温泉へぬける道で採集したもので、高雉山の標高1,600~1,700m地点であった。ブナ林の中で花に飛来していた個体である。

(〒321-14 日光市花石町1823)

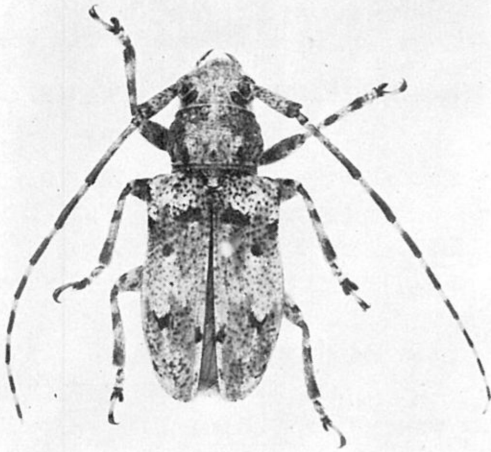
沖縄本島産オキナワゴマフカミキリの採集例

森島 直哉

オキナワゴマフカミキリ *Mesosa (Perimesosa) pictipes* GRESSITT の沖縄本島産原亜種は、GRESSITT (1937)の原記載以来まったく採集されていないようだが、筆者は同島南部にて本種を採集しているので報告しておく。

1♀, 沖縄本島糸満市, 20. Ⅶ. 1964, 森島直哉採集

沖縄が日本に返還される以前の記録で、ラベルの地名は“沖縄”とのみ記入されている。詳しい採集地はよく覚えていないが、史跡巡りのバスに乗って南部の海岸を回っていた折に採集したもので、恐らく“健児之塔”か“姫百合の塔”かのどちらかであったと思う。生木の幹に止っていたものを採集した。



この個体は奄美大島産の *ssp. miyamotoi* と比較すると、上翅が短く丸味を帯びており、石垣島産の *ssp. yayeyamai* に似た体型をしているが、自毛が多く上翅斑紋も異なっている。

(〒321-14 日光市花石町1823)

ヒゲブトハナカミキリを

ミズメ伐採木中より採集

武智 昭一

ヒゲブトハナカミキリ *Pachypidonia bodemeyeri* PIC は「日本産カミキリの生態と分布一覧表」(草間, 1973)によれば、花上や飛翔中のもの、およびサクラの木に飛来したもの(九州)が採集されているとあるが、筆者はミズメ *Betula grossa* SIEB. et ZOC. の伐採木材中より本種2♂♂1♀を採集したので、その状況を報告しておく。

日 時: 1975年7月26日 午後5時40分頃。

採集地: 東京都奥多摩日原本谷の林道最奥の貯木場。

(標高約1,000m)

天 候: にわか雨ののち、1時間ほど経過して日照あり。

材の状態: 2.5m くらいの高さに積まれた雑多な広葉樹伐採木の中の1本で、地表より1.2mの高さにあった。長さは約3m。直径45~50cmで、芯部は直径25cm くらいの空洞となっている。材部は堅く、樹皮はしっかりと材部についていた。

採集位置: 空洞の内側をのぞいたところ、切り口より10cm ほど内部の、ちょうど時計の5時の位置に1♂が頭部を出して脱出中であった。さらにピンク色をした繊維状の木屑が露出しているところから孔道を追跡したところ、2ヵ所で蛹室中の成虫1♂1♀が得られた。各蛹室は接近しており、3個共直径10cm の範囲内であった。蛹室の形状は長径40mm、幅12mm ほどの卵形で、空洞の表面と蛹室の間の厚さは2~3mm であった。

空洞の状況: 切り口より40~50cm から奥は腐蝕して多孔質となった芯部が残っており、入口付近は表面の2~3cmをそのような多孔質の部分が覆っていたが、蛹室のあった付近は未腐蝕の堅い材部で、蛹室はこの堅い表面の下にあった。

この採集を伝え聞いて、後から訪ずれた人達によってもやはり同じ木の空洞内で本種の成虫や成虫の破片が得られているようである。終りに、種々ご教示いただいた藤田宏氏に深謝する。

(〒197 福生市福生1530 加美平団地9-506)

青森県下の興味深いカミキリ2種

阿部 東・藤田 宏

青森県において、分布的に興味深い次の2種のカミキリを採集しているので報告したい。いずれも今まで青森県から記録のなかった種である。

1. ケマダラカミキリ

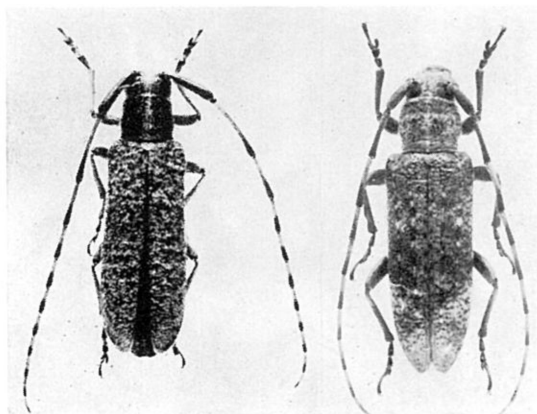
Agapanthia daurica GANGLBAUER

1♀, 青森県五所川原市飯詰, 21. V. 1974,

阿部東採集

久しく本州における確実な記録のなかった種であったが、青森県には確実に分布するようである。(写真左)

ハンゴンソウから飛び立った3頭の内の1頭をネットインしたもので、ハンゴンソウの生葉を後食していた。



2. ヒトオビチビカミキリ

Sybra unifasciata FUJIMURA

1♂5♀♀, 青森県津軽郡小泊村七ツ滝,

13~14. VIII. 1976, 藤田宏採集

すべてミツバアケビの直径2~3cmの半枯れづるに止っていたもの。関東・中部地方、北海道で記録されていたながら、中間の東北地方における採集例のなかった種である。(写真右)

採集地小泊は筆者の1人阿部が1974年8月にトウホクトラカミキリを採集している所で、今回も同種を狙って訪れたが、採集することはできなかった。

同地は竜飛岬に近い海岸沿いの放牧地で、ミズナラ・カエデ等を主体とした雑木林がある。海岸より500m程離れた地点であるにもかかわらず、今回、本州では中山帯で見られるヒトオビチビカミキリ・ルリボンカミキリ(1♂2♀♀)やオオチャイロハナムグリ(1♂)が採集され、それと同時に同じ場所で、クワの立枯れをトラフホソバネ(2♂♂)やフタオビミドリトラ(4exs.)が這いまわっており、また、叩き網でもクモノスモンサビ(1♀)やケン(多)などの南方系のカミキリが得られるという、本州中山帯の種と南方系の種が入り混った興味深い昆虫相を呈していた。

なお、今回得られた40種近いカミキリについては、阿部により「青森県立郷土館調査年報」の津軽半島西北部山塊のカミキリリストに追加報告される予定である。

(阿部: 〒037 五所川原市松島町2-91-3)

(藤田: 〒110 台東区台東2-29-6)

編集後記

この号は、はたして総会の日に間に合うだろうか。

(入稿直前)

きわどく間に合いそう?

(成増のとある喫茶店で初校を受けとって)

開闢以来、公約通りに出せそうです。

(日暮里のとある喫茶店で再校を受けとって)

印刷屋さんへ。「いつも変な編集後記ですみません。校正のたびに怪しげな文章が追加されていますが、気にしないで下さい。」(念校を渡すときに)

間に合った!! (本を受けとって) (???)

(藤田)

注) 本誌の正式名称は「ELYTRA」であって、「Elytra」および「エリトラ」ではありません。お間違いのないよう。

ELYTRA Vol. 4, No. 2

昭和51年11月15日 印刷

昭和51年11月21日 発行

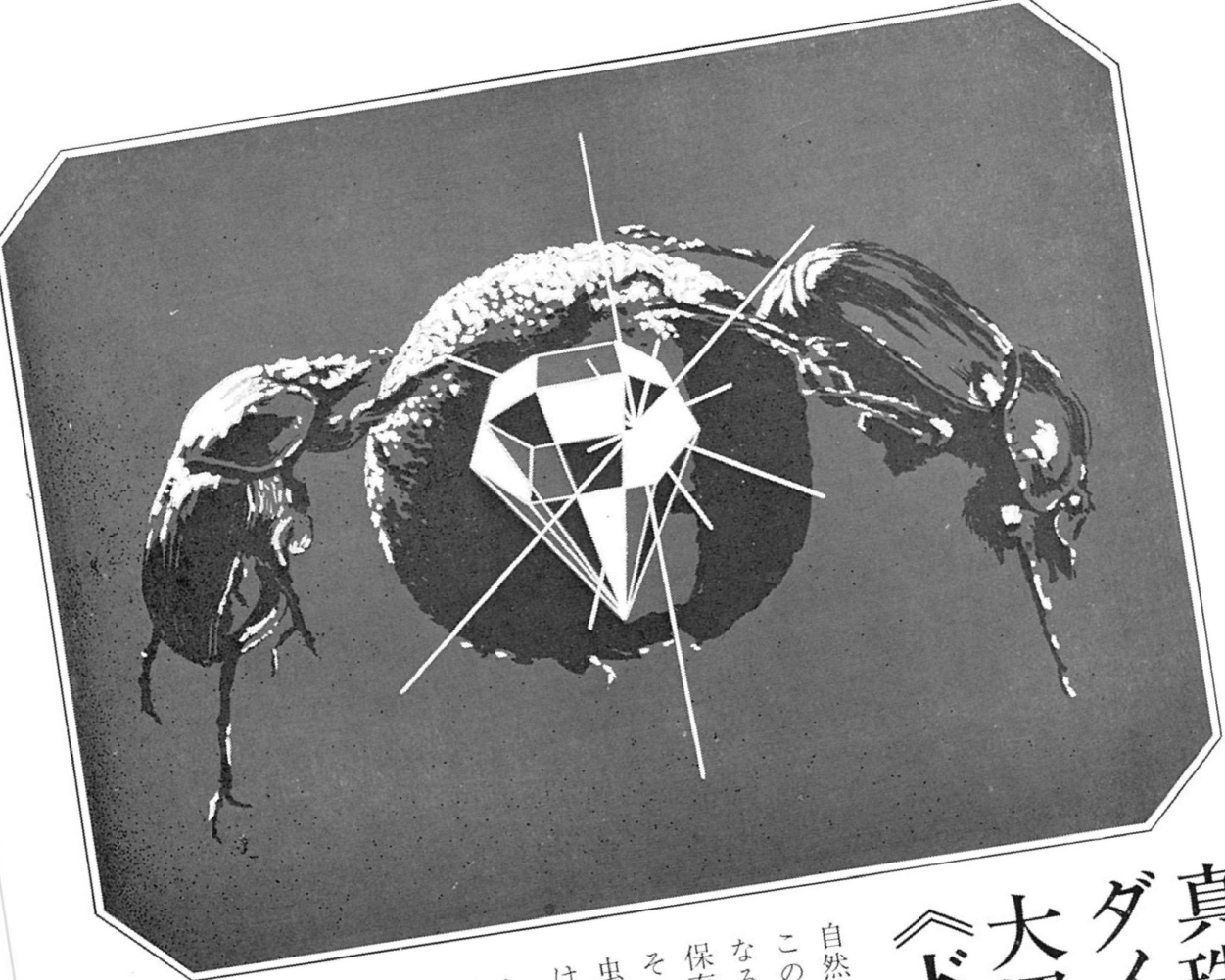
編集者 藤田 宏

発行者 草間 慶一

発行所 日本鞘翅目学会

Japanese Society
of Coleopterology東京都台東区東上野4-26-8
福田惣一方(〒110)c/o, FUKUDA, 4-26-8,
Higashi-Ueno, Taitō-ku,
Tōkyō-city, Japan

印刷 株式会社和印刷



真珠より美しく
ダイヤより価値がある
大切な標本を永久に守る
《ドイツ型標本箱》

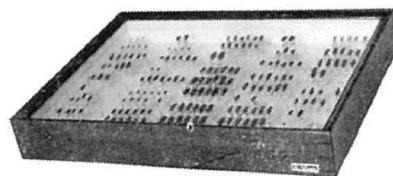
自然はますます大切なものとなってきました。
この不思議な世界を解明する貴重な手掛りと
なる昆虫標本は、価値あるものとして永久に
保存したいものです。
そんな願いをこめて、タツミ製作所では、昆
虫標本の保存に最適なドイツ型標本箱をお届
けします。

＊すばらしい特長

- くるいのこない良質な木材を使用
- 湿気や乾燥にも強い独特の構造
- パラゾールにも変化せず、標本がより美しく見える白色プラスチック底

●高級ニス塗装の丈夫で美しい仕上げ
※標本箱のほか、展翅板など昆虫標本作成に必要な器材もあります。
昆虫器材カタログ、昆虫関係輸入図書・委託図書リストもあり。
〒113 東京都文京区湯島二上二上二五 ☎〇三(八一)四五四七
郵便振替 東京一三四七九

(有)タツミ製作所



大型 4,500円(送料別)

中型 4,000円(送料別)

この価格は昭和51年4月現在のものです

日本鞘翅目学会会則

1. 会名：本会は日本鞘翅目学会〔The Japanese Society of Coleopterology〕と称する。
2. 目的：本会は甲虫研究の進展を計り、あわせて甲虫研究者相互の親睦を深めることを目的とする。
3. 総会：年1回の総会を開くものとする。
4. 活動：本会は次の活動を行なう。
 - a. 機関誌「ELYTRA」の発行。
 - b. 第2会誌「さやばね」の発行。
 - c. その他、甲虫に関する臨時出版物の発行。
 - d. 年1回の総会。
 - e. その他、必要と思われる一切の活動。
5. 会員：本会の会員は正会員・維持会員および特別会員からなり、正会員・維持会員は所定の会費を納めるものとする。
6. 役員：本会には会長ならびに若干名の役員をおくものとする。
7. 会計：会計年度は1ヵ年とし、会計報告を行なう。
8. 入会：本会に入会を希望するものは、指定の会員カードに住所・氏名等を記入し、入会金に1年分以上の会費を添え、事務局に申し込むものとする。
9. 会則の変更：上記会則の変更は総会にて承認される。

— 細 則 —

- A. 役員は当分の間、下記とする。役員は年2回行なわれる ELYTRA 掲載の原著論文の審査、および会務の決定・運営にあたる。

草間慶一（会長）、衣笠恵士（副会長）、露木繁雄、小宮次郎、中村俊彦、
福田惣一、大木 裕、高桑正敏、藤田 宏

- B. 入会金および年会費は下記とする。（前納）

	1974～1976年度	1977年度以降
入 会 金	500	500
年度費	正会員 2,000 維持会員 5,000	一般 3,000
		大学生および大学受験生 2,000
		中・高校生 1,000
		5,000

注1) 入会金は入会の年次のみ必要。

注2) 維持会員は一口につき ¥5,000 で、会誌は2部ずつ送付される。

注3) バックナンバーの誌代は年会費の金額に準ずる。

- C. 本会の事務局および編集局は当分の間、下記とする。

○事務局（入会の申し込み、会費の納入、バックナンバーの申し込み、その他事務一切）

〒110 台東区東上野4-26-8 福田惣一方

○編集局（投稿および投稿に関する問い合わせなど、編集関係一切）

〒110 台東区台東2-29-6 藤田 宏方

ELYTRA Vol. 4 No. 2 目次

原 著

益本仁雄 (MASUMOTO, K.): 台湾産食糞コガネムシ解説〔3〕
(A Revision of the Coprophagid-beetles from Formosa〔3〕).....25

小宮次郎 (KOMIYA, J.): 小笠原諸島におけるオガサワラトラカミキリに近似の1新種
(Description of a New Species Allied to *Chlorophorus boninensis* KANO from the Bonin
Islands (Cerambycidae))31

阿部 東: 青森県におけるオオヒョウタンゴミムシの採集記録.....35

小笠原 隆: マメクワガタ沖縄本島の記録.....35

田尾美野留: コクワガタの土中越冬について.....35

大桃 定洋: カラカネチビナカボソタマムシの北限記録.....35

大桃 定洋: 福島県いわき市のタマムシ5種.....35

藤田 宏: 先島諸島のナカボソタマムシ属覚え書.....36

中村 俊彦: 房総半島のカミキリ2種.....37

矢野 立志: 屋久島でアカネトラカミキリを採集.....37

小田 義広: 箱根仙石原でヒメビロウドカミキリを採集.....37

森島 直哉: アカムネハナカミキリを表日光高難山で採集.....37

森島 直哉: 沖縄本島産オキナワゴマフカミキリの採集例.....38

武智 昭一: ヒゲブトハナカミキリをミズメ伐採木中より採集.....38

阿部東・藤田宏: 青森県下の興味深いカミキリ2種.....39

編集後記.....39

表紙 (マークオサムシ).....藤田 宏